

産褥期の子育て支援をする祖母の疲労に対する主観的・客観的評価による検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-06-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田幡, 純子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003368

論文内容の要約

学 生 番 号	3218006	指導 教員 確認	主 査	岩 淵 和久教授
氏 名	田幡純子		副 査	櫻井 しのぶ教授
			副 査	高橋 眞理特任教授

学 位 論 文 名	産褥期の子育て支援をする祖母の疲労に対する主観的・客観的評価による検討
訳 タ イ ト ル	Examination by subjective and objective evaluations of fatigue of grandmothers who support parents during the puerperium period
共 著 者	

論文内容の要約 (1,000 字～1,500 字)

【目的】

本研究の目的は、生後3ヶ月以内の孫の育児支援をする祖母の疲労の様相を明らかにするために、①主観的評価を可能にする「祖母用育児支援疲労感尺度」の開発を行うこと（研究1）、②育児支援をする祖母の疲労を主観的・客観的に評価し、疲労に関連する要因を探索すること、また、③疲労と生活の質（Quality Of Life: QOL, 以下 QOL）の関連を検討すること（研究2）である。

【方法】

生後3ヶ月以内の孫の子育て支援をする50歳から69歳の祖母200名を対象に、WEBを用いた横断調査による尺度開発のための質問紙調査を行い、信頼性・妥当性の検討のもとに、「祖母用育児支援疲労感尺度」を作成した（研究1）。次に、疲労の実態を明らかにし、また、疲労感とQOLの関連を明らかにするため、過去1週間の間に生後3ヶ月以内の孫の子育て支援を行った51歳から69歳の祖母51名を対象に、同様にWEBによる質問紙調査を行った（研究2）。調査内容は、疲労の主観的評価指標として研究1で開発した尺度「祖母用育児支援疲労感尺度」得点、客観的評価指標として「睡眠アプリ」を用いて測定した睡眠状態の就床時間、睡眠時間、睡眠効率、覚醒回数の測定結果、QOL評価として「WHOQOL26」得点とした。分析は記述統計と推測統計を行った。

【結果】

『祖母用育児支援疲労感尺度』は、「心身の疲労」「睡眠の不調」「子育て支援への負担感」の3因子、17項目で構成され、4段階評価のリッカートスケールで得点が高いほど疲労感が強くなるように得点化した尺度であり、信頼性・妥当性が確認された。育児支援をする祖母の祖母用育児支援疲労感尺度の合計得点(Mean±SD)は、41.1±9.9だった。平均就床時間は403.2±91.3分、平均睡眠時間374.4±89.7分、睡眠効率の中央値は95%、覚醒回数の中央値2.0回であり、同年代の一般女性と比較して、就床時間は30分短かった(p<.05)。生後3ヶ月までの孫を育児支援している祖母の疲労感は、主観的健康観が悪いと捉えるほど「心身の疲労」が強く、また、実子・義理を問わず孫の母親に里帰りがあると「育児支援への負担感」が強いことが示された。次に、疲労感尺度得点から疲労感高群と低群との2群に分け、群間比較をすると、疲労感得点高群は低群に比べ、覚醒回数は多く(3.50回 vs 2.00回)、睡眠効率は低い(93.00% vs 97.00%)ことが示された(p<.05)。加えて、一般同年代女性のQOL平均得点が3.35±0.48点であるのに対し、疲労感得点高群は3.28±0.49点であり相違がない(p>.05)が、低群は3.67±0.53点であり、一般同年代女性よりQOL平均得点が有意に高い(p<.05)ことが示された。

【考察】

本研究は、育児支援をする祖母の主観的な疲労を「祖母用育児支援疲労感尺度」によって定量化した初の試みである。疲労の回復に必要な睡眠の状態について、この時期の孫の育児支援をする祖母は、就床時間は短い睡眠の質はほぼ保たれていると考えられた。なお対象者背景として、心身の疲労を強める要因は主観的健康観の悪さがあり、育児支援への負担感を強める要因は里帰りがあることが見いだされたことから、育児支援を予定する祖母に対しては、育児支援開始前から主観的健康観や里帰りの予定といった背景を考慮し、祖母自身の疲労に予防的に対応できる可能性があるのではないかと考えた。さらに、疲労感の強さが睡眠効率およびQOLと関連することから、孫の育児支援をする祖母への疲労蓄積予防に対する看護支援は、睡眠の質の向上に対する具体的な支援が有用であり、疲労感の低減によって、ひいてはQOLの向上に繋がる可能性があることが示唆された。

【結論】

これまで適切に測定することが困難であった周産期の育児支援をする祖母の疲労について、本研究では、心身の疲労、睡眠、子育て支援負担から測定する「祖母用育児支援疲労感尺度」を開発し、疲労の実態、疲労の要因、疲労と健康の関係から、祖母の疲労の様相のいくつかを明らかにした。したがって、祖母の疲労の特徴を考慮した孫の育児支援をする祖母への看護支援のためのtoolとして、今後本尺度活用の可能性が示唆された。